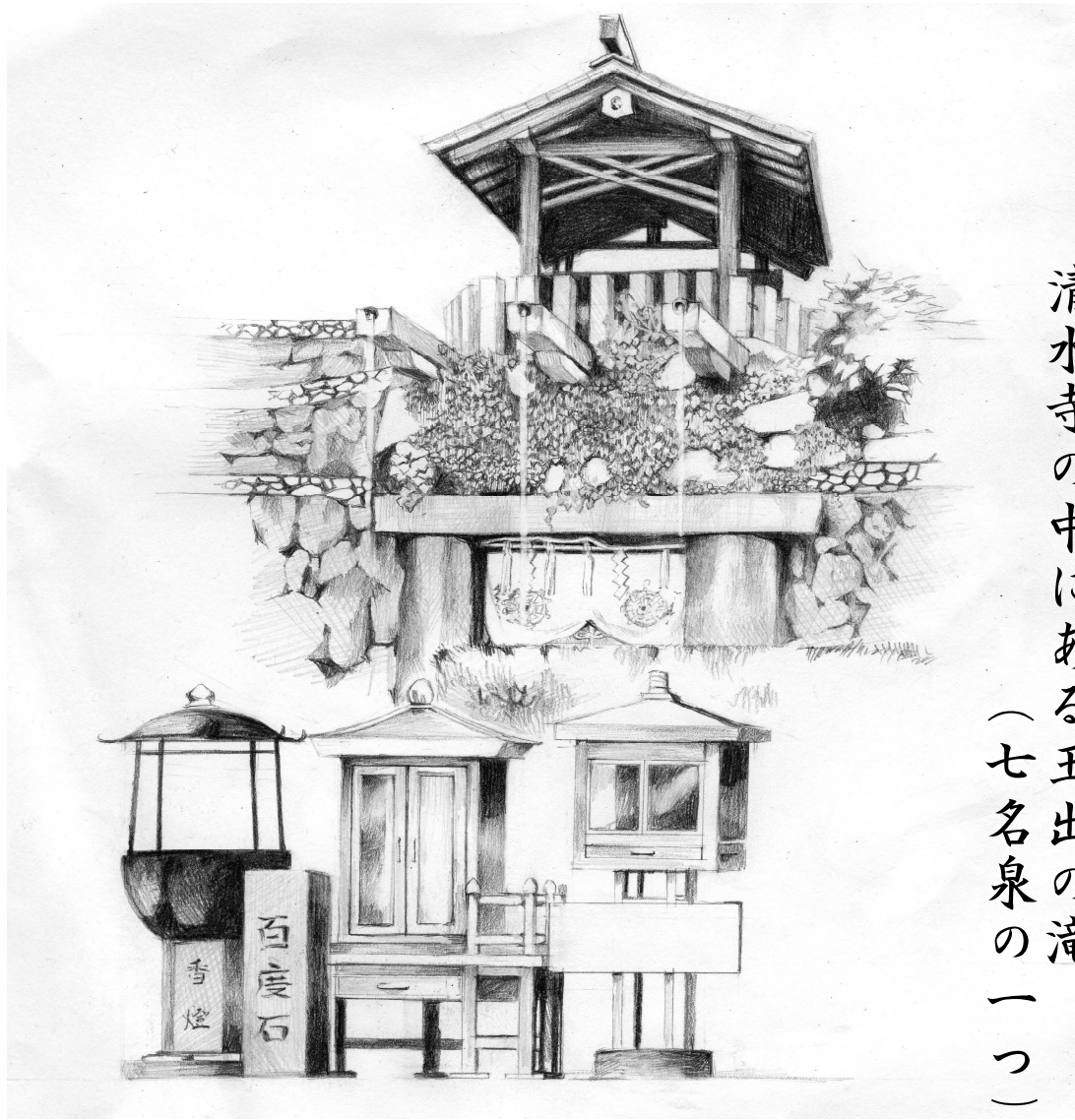


# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



清水寺の中にある玉出の滝  
(七名泉の一つ)

をやの思いをにをいかけ、

<sup>うちうち</sup>  
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一步前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

## 表紙のことば

(承前)松屋町から寺町に行く角のあやめが一軒起きているだけ、どこもまだ寝て居る。清水さんへ参れば五時、帰れば六時という有様、出る時手水を使って居ると旦那が来て、「アア、御苦労やなあ」と言ふて小田原提灯に灯を点けて出される。或朝の事、「才才跳参りだけはやめてくれ。又そが冷えて病気にでもなつて呉れると申し訳なひから」と言はれた。私は「ハイ、それではそういたします」と、其朝から雪駄履きで出る、一、二丁程行つた時雪駄を脱いで懐に押し込み、又跣足となつて走つた。道道の人が此節の跳参りは本當の信心と言ふてくれた者もあつた。

参つてくれれば私はこふして拜んで居るのや」と、私の出てゆく後姿を拜んで下さつた。一週間満願の朝、帰りがけ、備佐(上原佐吉)とピッタリ逢ふた。それを知らぬ顔して小走りに走つた。その日の午後、備佐から折井の家へ使ひが来た。私に用事があるから一寸来てくれとの事である。それから行つた処が、「おとよさん、今朝清水さんへお参りの途中、あんたによつた娘が朝早くから跳参りをして居つた。あれはおまはんやなかつたか？たしかそふ思はれるが、トツと行き過ぎてしもふたから言葉をかけることが出来なんだ。」と尋ねられた。私はモウ仕方がない。「ハイ、そうです」と答えると、「何や、何を信心して居るのや？此の寒空に跳参りとは何事や」

「ハイ、実は斯斯の次第と、主人の家の坊の患ひの事、代参の事など話すと、今度は備佐の御寮人(上原八重)が「おとよさん、おまはん主人に忠義もエー加減にしておきや、馬鹿らしい、此の寒空に跳参りとは何事や、足腰冷えて病気にでもなつたらどうするのや」と大変叱られた。

「マー、若いのよう信心してあげた」と褒められるのかと思ひの外叱られた。それから思ひのは、櫛の齒を挽くやうに備佐から使ひが来て引き戻そふとする、そうして、とうとう備佐の家へ入る事となつた。折井の方では、その坊の姉に当たる養女があつたので、其の養女や坊の姉さんになつて万事面倒をみてやつてくれとの事であつたが、備佐へ入る事になつたので、その事は断つた。坊の病氣であるが、それは一週間、私の満願の日から、目に見えてよくなり、遂に全快した。その後は、折井の家へも屢々出入りし、まるで親類のように親切にし合つた。坊も次第に成長せられ、相当出世せられた。

以上である。この跳参りはさとの若い頃の信仰心の発露であるが、これを機として備佐へ入る事となり、養子となつた佐助(後東大教会初代会長)の伴侶となつた事を思えば、そこに大きな宿世を感じる。若いからできたといふものの、四キロ余りの道のりの早朝の跳参り、女子青年のあなた、できますか？

さて、この項の最後に清光院・清水寺について書いておこう。

有栖山・清水寺清光院は、十一面千手観音菩薩を本尊とする。この菩薩像は聖徳太子の作と伝えられる。他に風天尊(十二天の一つ)に数えられる仏天で、風氣を司る。観世音菩薩の化身で、昔から風邪除け、感冒除けに信心されている。(地蔵尊言い伝えとして夜毎、池の上に浮かび上がる霊木があり、そこから赤子の泣き声が聞こえるので、引き揚げ地蔵尊を彫つたとされる。子供を守護される。(玉出の滝(寺の南側の谷にある。)等がある。初代の願いの筋にピッタリの寺ではなかつたかと思われる。

(史料部長 上原繁道)

# 談話室



## 出会い その三ノB

神村分教会前会長 下田輝夫

絶対OKだと思っていたのがノーである。世の中甘くないですね。物事はそう簡単に思うようにゆくものではない。ヨクワカリマシタ。水前寺清子の、押しでも駄目なら引いてみな、と云う歌が其の頃有ったら、一押しも二押しもする所であるが、あれは大分後に出来た歌である。嫌われてノーかと思ったら、そうではなかった。親の気持ちとしては、娘を呉れと云われて、ハイ差上げます、と返事をしては娘を安売りする事になる。だから一度は断って其の上に呉れと云われればOKの返事をしよう、と云うのが本音だったとの事。

後からわかった事だがもうおそい。もう一押しすればよかったと思ったが、心に浮んだ事が妙にひっかかって、神様がいけないと思われればノーと、自分としてはほしいと思いたけれど、将来的には駄目なのかナと思って、二度と申し入れはしなかった。

そして其の次に有った話が、今の家内との出会いでした。同じ部内のB布教所長さんのお世話取りで彼女満二十二年の誕生日に、お見合いと云う事になったのである。見ず知らずの女性との初めての見合である。少なからず緊張したのはお察し頂きたい。

若い頃の私は随分内気な方であった(本人が云うのですから間違いない)。其の為に面と向った彼女の顔をまじく見る勇氣はともなかつた。布教所長さんの紹介で相対して坐ったものの、顔は一切見ず仕舞である。

着物を着て坐っている其の膝の上に置いた指先が一番目についた。とてもキレイで可愛い指である。それを見た時、こんなキレイな指をしていれば、顔はそれ以上にキレイだろうと、勝手にきめてそう思い込んでしまったのである。

元々我が家には面喰いの因縁があるようで、顔ぢやない心だよ、と寅さんは云うが、因縁ならそうはゆかない事もあるのである。

最近になって女房に云った事がある。もし先に写真を見ていたら見合はしなかっただろうと。どうして? わしの好みぢやないと。随分失礼な云い草だが、今なら何でも云へるのである。それはさておき、見合いは指先を見ただけで無事に終わったのである。



**実践項目集計 (8月)**

百万軒にをいがけ	59,254軒
おさづけのお取次	4,311回
身上事情お願い	789件

サテ〜問題はこれからである。(以下次回に)

# 温故知新

## つくし一条、運び一条

西村分教会前々会長 藤本 キヨミ

(聞き手 枝廣 隆文)

聞き手：「今までの信仰をふり返って、若い頃よりお聞かせ下さい。」

昭和8年、18才の時奉公先から福山分教会へおつとめ、ひのきしんに通っていた折、本部の、二人の先生より別科募集案内を聞いて一ぺんに行きたくなり、父に頼み、奉公先に借金して出させて頂いた。六ヶ月の費用が100円、芦津から400人が別科生となった。帰って毎月10円の給金より5円返済に当てた。

当時は路傍講演が盛んだった。提灯に伝道太鼓を携えて福山分教会から笠岡方面、又箕島の方へも出掛けた。講演は常に一番手であった。炭箱の上に立って、女の若い身空で何を話すか注目してもらおうでもあった。尾道ではバタンコの荷台より農協病院に向かって拡声器で話した。窓を開けて話に耳を傾けてくれた。駅前知らない花屋さんが花束を贈呈してくれた。

聞き手：「スターみたいですね。うれしかったでしょう。」

いやではなかった。ニッコリ。現在では話す事を嫌う人が多いが、話す事は言うた事の裏付けとして通らなければならぬので大切だと思う。

昭和10年結婚し、昭和14年前任会長が出直し後、主人、藤本金一氏(33才)が会長となったが、昭和19年、戦争に召集されて戦死。

聞き手：「ご主人の思い出は」

若い頃、余り信仰熱心でなかったが盲腸が癒着して腸結核となり医者より三日の命と言われたのが別科にお引き寄せ頂き御守護頂いてから熱心に信仰する様になった。昭和10年頃、向島、浦崎、岩子島辺りを布教中浦崎から向島へ行くのに一銭の渡り賃がなかったので頭に着物を括り付けて泳いで渡り、土手で着物を干して、又布教に回っていた時、皆、大きな海どんガメが泳いでいると騒いだ。又、ゲタの歯の取替えがきくので諸生ゲタを愛用していたが足の形が代にめり込んで歯の取替えがきかなくなるまで履いていた。

聞き手：「キヨミ先生が教会長に任命されてからの事を聞かせて下さい。」

昭和24年1月26日任命のお許しを戴いてから古い役員のおばさんに信者宅を教えてもらってから毎日、10年間、信者に変わった事ないか安否を知るため昼食抜きで運んだ。おたすけにかかる朝

食まで抜いて回った。ひのきしんがある時は少身体に堪えた。

聞き手：「へえ、それでよく体がもちましたねえ」

……。

又、大教会が田頭にあった頃、昼から祭典がつとめられていた。50銭の汽車賃が無かったので、ひと回り上の平盛オイチ姉と一緒に福山分教会から歩いて4時間かけて参拝した。だからせいと言われたわけでもないが二人で清酒一升づつさせて頂いた。大教会が用ノ江に移転してから、会計の岡本先生より20年間したからもうえかろうと言われた。最初一升5円のもので200円近くになっていた。

聞き手：「福山分教会神殿普請の頃の事、聞かせて下さい。」

当時、正一会長様は奥様が出直されてお一人であったので、平盛オイチ姉と十日間位、自教会放っておいて、ひのきしんの為福山分教会に詰めていた。正一会長様は身上で米のご飯、大工さんは米半々、その他ひのきしん者には九一のご飯麦九合、米一合と三通り炊いた。おやつにパンは仲々買えないので米をうどんに換えてくれる所があったので、うどんをよく出した。ひのきしん者が少々増えても調達が出来るので便利なかったが何時もうどんなので、うどんの顔も見たくないと



言う者も居た。ワッハハ。支払いには大変難渋していた。瓦家さんが『支払ってくれるまで待たせてもらう』と言った時、会計の福島先生が『私が端金は借りれないので平盛さん藤本さん頼む』と言われたが、『商売人の金は二ヶ月までしか借りません』と言うと『あれがあらう』『当時、へむじん』という定額を10ヶ月掛けたら貸してくれて、千円の利息を取って40ヶ月で返済するのを有志で積立っていた』『まあ会計さんは人の懐まで見て、感心するワ、ワッハハ』へむじんくんに良く助けてもろうた。

聞き手：「つくし、運びは、どういう思いでされましたか」

おつくしは信者さんも、教会へ住んで居る者も同じ立場。教会の者は守りをさせて頂いているだけ、信者さんが運んだものを上へ運ぶだけではへなかせ(仲施)であると思う。御用がある時、私はこれだけさせて頂きたいと決める。出来るからするのではなく、出来んから種をまく、種をつくる。種をつくることによって生えて来る。神様には空手形は出来ない。お父さんがくれたり(遺族年金)子供にもさせる。長男の所へボーナス時貰いに行ったら、平盛オイチ姉がボーナスまで狙うのかと言ったが、ちょっと薄情かと思うけど、その子の金廻りが良くなる。やはりこれが種となる。本人もイヤと言わずしてくれた。

聞き手：「おたすけについてお聞かせ下さい。」  
相手の身上から自分ほどの様に通るか決めておたすけしないと理が通らない。こちらがおたすけした事忘れても毎月祭典前には運んでこられる。運んだ理、おたすけした理は神様が運ばす。どういうたところでも神さんに働いてもらわなければ何にも出来ない。出せと言うより出さねばならん様に理をつくる。

聞き手：「今まで一番心に残る思出は」

私が10日間位福山分教会へつとめる時、子供には金も置けんし食物も準備して出れない。子供は神様が守ってくれる。私の母が、『あなたは、ここでワハハと笑っているが子供はどうしようるんなあ』と言ったので『死んだという電報も来んので元気でおるじゃろうと』『でも家の近くまで帰ると子供三人さて何を食べたんじゃろうかとの思いが心をよぎる。帰って子供に聞くと芋飴のおばさんが芋をひっくり返したのでバケツ一杯の芋を持って来てくれたとのこと、で自信が出来た。』



▼養徳社発行『陽気』誌十月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「意」選六十四句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

地位 東悠分教会長夫人 田林 美智子

意の中にだんだん見える道のあり

準秀詠 芳阪布教所長夫人 杉原 優子

無意味かな戸惑う運びに実が稔り

▼父の詩語り 詩 寺下 宏 一

一、朝なぎ 夕なぎ べたなぎの坂手を出てから六十年

海に沈みし巡洋羽黒

戦死の公報 よみがえる

二、父逝きて 帰らぬまゝにすこやかに育った子 四人

瀬戸内小豆の坂手港

戦死者墓地に名を連ね

三、後世に書き残されたり

墓石に刻む物語り

マラッカ海峡ペナン島

海軍大尉 壺井萬吉

私は、不足は言わない。いつも前向きにとめる。おもしろえよ。

聞き手：「貴重なお話、有難うございました。」

**第 7 7 6 期 修 養 科 募 集 要 項****\* 修養科期間**

立教168年12月1日～立教169年2月27日

**\* 教 養 掛**

3ヶ月間	今 川 昌 彦	(大教会役員)
1ヶ月目	仙 田 喜久雄	(天場山分教会前会長)
2ヶ月目	竹 本 和 道	(福 芦 分教会長)
3ヶ月目	渡 邊 隆 夫	(神 昭 分教会長)

**\* 募集要項**

- ・ 志願者は、12月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 11月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、3月1日の昼食後に解散。

---

**◆ 委員部長後継者講習会**

【期 間】 11月22日(火) 午後2時半開講  
11月23日(祝) 昼食後解散  
【場 所】 大教会

---

**◆ 大教会障子張り替えひのきしん**

【日 時】 11月13日(日) 午前9時より  
【内 容】 ; 神殿及び館内障子洗い、張り替え。

---

**◆ 大教会年末大掃除**

【日 時】 12月22日(木) 午前9時より

---

**◆ 詰所餅搗きひのきしん**

【日 時】 12月26日(月)・27日(火)  
26日13:00より。  
27日 7:00より。

---

**◆ 各行事に参加ご希望の方は、****各ブロックの担当者にお申し込みください**

---

**【訂正とお詫び】**

立教168年9月21日発行の『かさおか』におきまして、ページヘッダーに誤りがございましたので、下記の通り、訂正少々、お詫び申し上げます。

【誤】 1月21日 第44巻 第1号  
【正】 9月21日 第44巻 第9号

---

# 九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には子供かわいい一条の親心のままに天然自然のお働きを通して一列子供をお育て下さり身上事情を通して陽気ぐらしへとお導き下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます。しかるに真実の親を知らないが為にかしものかりもの理も分からず目先の御利益に一喜一憂するばかりで我が心得違ひの立て替えどころか反省さえも出来ずに闇路を彷徨うている人が多くいます事は実に残念でなりません。私共は成つて来る理に常に親心を求め思案を重ねつつ一筋の灯りを目指して日々は親心を一人でも多くの人に伝えるべくにをいがけおたすけを通して世界だすけの御用の上につとめ励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は九月の月次祭を執り行う定めの日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめてをとりをつとめさせて頂きます。御前には実りの秋に胸おどらせつつ今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げます。状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖年祭に向けての成人の仕上げの年の今年も残すところあと三ヶ月となりましたが果たして成人の度合いはと考えるとまだく〜到らぬ点が多々あるように思えます。今一度この旬に自分や家族の助かりの為だけの信仰に留まっていなかつかりと反省した上で教祖御身お隠しの意味を改めて思案しよふぼくとしての自覚を高めてひながたの万分の1でも辿らせて頂く所存でございます。その意味でも月末の全教一斉にをいがけデーにはおちばに心をついに繋いでにをいがけに歩かせて頂く覚悟でございます。又来月は大祭月でございますので直轄教会への秋季大祭参拝をさせて頂き仕上げの年の総仕上げになるようにお互いしっかりと心定め完遂に向けての実動を誓い合わせて頂く所存でございます

何卒親神様には旬に当たつての親の思いをしっかりと受け止めたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に更なる親心と御守護を賜り世の人々の心に喜びと感謝の気持ち満ち溢れ互いに扶け合つてお望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 大教会だより

◎教会长資格検定講習会修了者

前期 立教168年10月14日終講

- 笠岡 上原 大安
- 上下 押尾 啓司
- 廣町 宮本 和喜治
- 廣町 宮本 雅子

◎本部食堂ひのきしん

- 自 立教168年10月1日
- 至 立教168年10月15日
- 芦加茂 小川 幸平

## 訃報

三代 昌氏

雲東分教会前会長  
十月十七日出直されました。  
享年 九十六才



## 秋季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の御霊初代真柱様並びに奥様の御霊二代真柱様の御霊中山家御先祖の御霊大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の御霊初代会長上原さと刀自の御霊二代会長上原伊助大人光刀自の御霊三代会長上原繁雄大人くに多刀自の御霊四代会長上原郁雄大人の御霊大教会草創の頃より歴代会長と共にご苦労下さいました役員部内教会長教人よふぼく信者の御霊諸々の御霊の前に会長上原理一慎んで申し上げます

祖霊様方には親神様教祖のお見定めを頂かれ早くからこの道に引き寄せられ息の限りたすけ一条の道をお通り下さいましたが、その道中は並大抵ではありませんでした やまさかやいばらぐろうやがけ道であったりつるぎの中であったりもしましたがどんな中にあっても喜びと感謝の心一杯に只御恩報じ一筋に通じ切られました 今日のお道の結構な姿をお見せ頂いておりますのもひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜であることは申すまでもありませんが又一つには祖霊様方のそうした真実の伏せ込みの賜でございます 私共もその思いを受け継ぎ御恩報じの思い一筋に日々は朝夕に御礼申し上げつつ届かぬながらも世界だすけの御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日のこの日は秋の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので事改めて祖霊様方をお偲びし御遺徳を称えたいものと御前に海川山野の旬の物を供えて寄り集いましたゆかりある人々と共に只今はおつとめ奉仕者一同親神様の御前にてをどりをつとめさせて頂き続いて御前に参らせて頂きました 祖霊様方をお慕い申し上げる皆の真実の状を御覧下さいまして祖霊様にもお喜び下さればと存じます

さて教祖百二十年祭まであと四ヶ月というところまで近づかせて頂きました 三年千日と仕切って成人目標を揚げて今日まで歩んでまいりましたところそれなりに成人の姿も数の上での成果も現われてきておりますが只それなりに域を越えていないのも確かですそれに対する奮起を促す為に「雷、地震、大風、水つき」等の自然の脅威でお示し下さっているようにも思えます 残された四ヶ月祖霊様方いい年祭を迎えたと行って頂けるよう反省すべき点は真摯に反省ししっかりと心定めをして精一杯たすけ一条の成人の道を歩ませて頂く所存でございます

何卒祖霊様方にはおつけ下された御恩報じの道を引き継ぎ大環道を目指して先へ先へと道を伸ばして行く皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして旬にふさわしい成人の姿を御守護頂けますようお見守り後押しし程を一同と共に慎んでお願い申し上げます



月日の過ぎる速さに、苛立ちを覚える。

何故かと言えば「心定め」の初席に、未達があるからです。

今年は、「心定め」や種々の思いがあり、一月中頃、四十年の喫煙を中断し、「禁煙」の願掛けをして、初席者確保に臨んでいました。早速二月に、六十歳の男性で腎臓が悪く透析をうけているT氏が同意してくれ、時候の好い五月に受講の約束を頂き、見事なご守護と喜んでいました。

所が、不幸は、突然訪れるものです。三月末、急に心筋梗塞で出直されました。そして皮肉にも、約束の初席受講日が、三十五日の法要日になろうとは思ってもありませんでした。私の誠真実の不足(否、あの時の一本の貫いたバコか?)と反省しつつ、再チャレンジしていますが、色好いご返事が頂けず十月を迎えています。

今月は、立教の縁の日ですから、私も「我は、元の神・実の神の取次ぎ人である。この屋敷に因縁あり。世界一れつをたすける為に天下った。Kを神のやしろの用木に貰い受けたい。」とばかり、最後の誓として、目立った身上・事情もない某家に、罷り出ねばと思っております。

私と同じ境遇の方もいらっしゃると思いますが、悶々とした日々早く決別する様、「心定め達成」に向けて、頑張りますよう。(さ)

秋季大祭を迎える  
と、年末の足音が、  
そこまで来たかと感  
じる。今年は、特に